



善正寺だより

掲示板法話

我が「自己中心」の姿に目覚め 必ず「仏さまの心」に導かれる

一年中で最も寒いこの季節、皆さんお変わりなくお過ごしでしょうか？
勿体ないことですが、寒い季節になると思い出すご和讃があります。

無碍光むげこうの利益より

威徳いとく広大の信をえて

かならず煩惱のこほりとけ
すなはち菩提のみづとなる

(高僧和讃・曇鸞讃)

「阿弥陀如来の光明の与え給う利益により、阿弥陀如来の広大な威徳に対する信を得ることによって、必ず私たちが凡夫の煩惱の水が溶け、その水がそのままお悟りの水となる」という意味です。硬く冷たい氷が暖かい日の光に照らされて溶ければ柔らかな水に変化するように、むさぼり、怒り、愚痴の冷たかたくなな、自己中心の心や生き方が、転換されるということです。
古い話ですが、世界的な科学者・アインシュタインが日本を訪問した際、当時有数の仏教学者・近角常親師と対談、「仏さまとはどんな方か？」と質問されました。すると近角師は「姥捨て山」の話がされたそうです。



〒512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎059-331-1670
fax:059-332-0733

昔の貧しい時代、食糧難のために老いて働けなくなつた親を山へ捨てる、という慣習があつた。ある息子が母親を背負つて山奥へ入つて行った。途中、母親は木の枝を折つて何度も道に落としていた。息子は「母は村へ帰ろうとしていたのだ。そのために目印として枝を折つて落としていたのではなにか？」と疑つていた。やがて、深い山奥で母を下ろし、背を向けて帰ろうとした時、母が言った。
「お前が道に迷わんよう、木の枝を落としておいた。目印にすれば帰れるじゃろう。さあ、気をつけて帰れ」と合掌して別れを告げた。その言葉を聞き、息子は泣いた。「自分は何と恐ろしいことを思つていたのである。捨てられようとしていたのに、母は最後まで自分のことを心配してくれたのだ」と手をついて謝り、再び母を背負つて山を下りて行った、という悲話です。
近角師は「この母の姿こそ仏さまの姿です。自分のことよりも息子が無事に帰れることだけを心配する。それが仏の心です」と話されました。涙ぐんでこの話を聞いたアインシュタイン

☆行事ご案内☆

◇2月の門信徒会例会

2月17日(日)夜7時半

◎涅槃会ねはんえ(お釈迦さま入滅; 2月15日)に寄せて

お釈迦様は別れを嘆く仏弟子たちを前に、「自らを灯とせよ。他を灯とすることなかれ。法を灯とせよ」と遺言された。流行に流されがちな現代人の人間成就の道を学びましょう。

《予告》春季永代経 3月16(土)17(日)

両日共午後1時半 講師：稲葉芳道師(奈良吉野)

お経開き(招待者)16日午前10時半

◇絵手紙教室 2月12日(火)午前10時40回目

初心者の入会大歓迎！作品は小杉郵便局にも展示

「下手がいい、下手でいい」秋には展覧会予定

◇キッズサンガ2月2日(土)午後4時、鐘つきは毎日

夕方5時、年中無休、子供に心の教育と礼儀作法を！

◇一縁会テレホン法話☎0593-54-1454三重組

5か寺の住職、坊守、若院らが3分法話、法話集発売中！

◇善正寺ホームページ「三重善正寺」で検索、1年分の寺報

閲覧可。毎日更新のブログ『住職と坊守のつれづれ日記』好評

開設10年6か月で28万3千訪問、悩み相談大歓迎、即返信

◇新納骨堂：後継者の無い方、お墓でお困りの方ご相談下さい

◇法事場所でお困りの方；本堂使用可、寺にご相談下さい

は「日本人がこのような温かい宗教を持つて居ることはこの上もなく幸せなことです。日本に来てこんな素晴らしい教えに遇うことができたことは何物にも勝ることだ」と語つたという。自己中心にしか生きることのできない我々凡夫の姿をお見通しの上で「我が悲しき姿に気づけよ。その苦惱の中に如来は来ているのだよ。任せよ、必ず救う」とのお喚び声が南無阿弥陀仏です。それを我に届けて下さつた父母に、「父母よ仏縁頂き有難う」と感謝せずにおれません。



☆写真アラカルト☆：元旦会記念写真等



坊守スケッチ 現代版『陸の孤島』



青森県の山深くに、最近外国人観光客や日本人旅行者に人気のランプの宿があります。電気も水道もなく電波も届かない秘境の一軒宿。ドライヤーもスマホも使えません。料理は囲炉裏で調理する川魚の串刺しや山菜の天ぷらと野菜汁。グルメ志向には敬遠されませんが、四六時中オンオフのない都会生活を送る疲れ切った現代人にはオススメの宿です。夏には蛍が舞い、川のせせらぎと露天風呂。夜には満天の星。日常生活を忘れさせ、タイムスリップしたような心休まる宿で、五感が満たされ、のんびりできます。

私は一度も秘境の宿には行ったことがありませんが、代わりに毎朝夜明け前の垂坂山で五感磨きをします。展望台から眺めるコンビナートの夜景は日本夜景百選の一つに選ばれて、ダイヤモンドを散りばめたように輝いています。澄み切った冬の冷気に一際明るい金星。東の空が白む頃、伊勢湾の向こうから太陽が昇り始めます。今日一日の始まりに出遇えたことに感謝し、お念仏を唱えて合掌します。

ところが先日夜明け前の垂坂山でスマホを落とされた方がいてパニックになりました。携帯会社にストップ通知をして探しましたが、まだ見つかりません。毎日沢山の人と交信して、メールや電話が沢山届いている筈。相手の電話番号も全てスマホの電話帳

にあり連絡もできません。まるで『陸の孤島』に放り出された気持ちです。ここにスマホ漬けされた現代人の盲点があります。スマホで全ての人間関係が完成したと思いがちですが、案外身近な人とはコミュニケーションが不足していることに気づきます。

平成という時代はスマホの普及で便利になった反面、身近の人との交流を疎かにした寂しい時代だと思えます。ところで『浄土真宗の救いの喜び』の第一条に「阿弥陀如来の本願は必ず救う任せよと、南無阿弥陀仏のみ名となり、絶えず私に喚びかけます」の項目があります。いつも私に喚びかけて下さる如来様の喚び声を、しっかりと受け取れる私でありたいと思えます。

寄稿
寒風や壁突き破る園児の歌 釋妙水
初夢や笑顔の星がふりそそぐ 短日や慈愛たくさん置いて遊ぶ 山里は空と星の冴え清ます 初空や有明の月二人連れ 釋清風
席ひとつ空きて書初黙しけり 蜜柑むく小さき指早や巧みなり



☆若院夫婦の『青自な日記』50

我が家の冬休みは、長男が終業式の日の午後から発熱し、インフルエンザと判明。楽しい冬休みは他の家族に感染しないかと心配しながらの幕開けでした。

年末の雪の降る日、私の書道教室の大掃除とお楽しみ会がありました。一番、興奮して騒いでいたのは病み上がりの長男。長女はお姉さん達に交じり黙々と床磨き。みんなこの日をとて

も楽しみにして、私も景品やお菓子やゲームなどの準備に大わらわ。これが終わるとようやく年末が来た、と感じます。実家の松阪に帰省したり、桑名の第一家が挨拶に来たり、除夜の鐘、元旦会などたくさんの方が集まり穏やかで暖かな年末・年始を過ごしました。子ども達は誰にでも得意のお喋りや歌を披露してとても賑やかでした。

冬休みが終盤になると、二階から下ろしてきたコタツで映画を見たり、トランプをしたり、本を読んだり。コタツの魅力を再発見して親子とも抜け出せない『コタツムリ』生活。新学期に向けて体力回復の為に、プールの初泳ぎや公園で遊んだりしました。

さて、短い冬休みが終わわり新学期。小学校より一日早く幼稚園が始まった長女は「幼稚園、嫌いやもん」と前に愚図っていました。ちゃんと登園できました。三学期は短いですが、次の学年への最終ステップとして頑張ってほしいと思います。(若坊守)

ホットニュース

◇除夜の鐘、元旦会、お朝事にはようこそお参り頂き有難うございました。帰省中の息子さん一家がお参り頂けるのも、故郷のご両親のお導きのおかげ！また4日間朝7時の御正忌お朝事にもようこそお参り下さいました。熱心にご参詣下さるお姿が、お寺の伝統を繋ぎます。本堂に正信偈が響き、身の引き締まる思いがしました。
カンパありがとう！

矢田たず様、正親市子様、徳永大信様、澤田美智江様、豊住久美夫様、阿曾香代子様、廣田伊久枝様、木田みき様、服部政樹様、服部真弘様、館敏彦様、鈴木登代子様、天花寺建司様、他匿名。

平成31年度・善正寺主な行事案内
☆春季永代経 (3月16日・17日)
両日共午後、奈良吉野、稲葉芳道先生
☆善正寺門信徒總會5月19日午前
☆玉蘭盆会法要8月15日朝8時半
☆秋季永代経 (8月17日・18日)
両日共午後、尼崎市 足利孝之先生

☆小杉町仏教会追悼法要9月22日 (日) 午前10時・午後1時・相愛大
学教授・大阪池田 釈徹宗先生 (初)
☆報恩講11月2日(土) 午前と夜
3日(日) 午前のみ。但し2日11時

よりお非時接待あり。(講師) 京都綾部市るんびに園理事長・藤大慶先生
☆秋勧進11月23日午前8時
☆お内仏報恩講12月7日(土) 午前

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」第302号をお届けします。余寒厳しくも光の春です。ご自愛を。

大寒立春と季節は瞬く間に移ろいますが如何お過ごしですか？
今年古希を迎える私は早寝早起き、散歩が生活習慣。お
けさまでこの歳まで元気です。これも寺に嫁いでから30年以
上毎朝6時の鐘つきをしてきた思恵。傍目から見れば若
労に思えることも、振り返れば健康の礎となりました。
政治学者で東大名誉教授の妻尚中著『母の教え』という
本を読みました。「私の母は在日韓国人。読み書きができな
ったが、そのハンディを「情」に裏付けられた「智恵」で生きてきた
世の中には「情のある人」と「情の無い人」がいる。母は情の無い人は大嫌い。
お前は情のある人になすくれが口癖。渡る世間は鬼ばかりじゃなか
い人もいる。学者になっても遠くばかりを見ずに足元をしっ
かり見とらんと躓くよ。そして人は先ず食べんといかん。食べんと
死ぬ。偉い人もそうでない人も、貧乏人もみんな口から入れて死
から出す。やがんとせんと生きていけん。しつかり三度三度食べろ。人間
は歩く食堂だよ。無学な母親が身を持って体験した「智
恵」が詰まった言葉でした。シンプルだが筋の通った真実の
教えが、今後の著者の生きる指針になっています。私達もス
マホの情報を鵜呑みするよりも、身近な両親やご先祖が
歩んできた道を一度辿ってみましょう。そこには万巻の書
物よりも確かであるあなたへの願いが一杯詰まった安心した世界
が広がっています。仏事は私の為にも用意された「生きる指針」
を授けてくれます。今年も仏事を通してしつかり「聴聞
いたしましう。本年もよろしくお願ひ申し上げまう。合掌

平成三十一年二月

善正寺坊守拝